

第6学年 特別の教科 道徳学習指導案

対 象 第6学年1組 児童 25名

指導者 1組担任 高橋 哲

対 象 第6学年2組 児童 26名

指導者 2組担任 鈴木 悠大

1 教材名、主題名 「家族だからこそ」 [C 家族愛、家庭生活の充実]

人権課題『北朝鮮による拉致問題』

2 ねらい

拉致被害者、拉致被害者家族の現状を知り、その悲しみや苦しみ、元の生活を取り戻したいという気持ちに共感させることを通して、家族の幸せを求めて、改めて家族を大切にしようとする態度を育む。

3 主題設定の理由

(1) 児童の実態

家族が相互に深い信頼関係で結ばれていることに気づき、家族の幸せを求めて改めて家族を大切にしようとする心情を育てるために、以下のような指導を行ってきた。

家庭科「クリーン大作戦、暑い季節を快適に」

自分の生活が家族に支えられて成り立っていることを考えられるようにするために、導入では自分が着ている物の洗濯や部屋の片付け、食事の準備は誰がしてくれているのかに目を向けさせた。単元の学習を通して、家族の支えが毎日の生活を支えてくれていることに気づき、自分が大切にされていることを再確認し、自らも家族を大切にしたいと考える姿が見られた。

国語「たのしみは」

自分が楽しみとするのはどんな時なのかをテーマにして短歌を作成する中で、家族との思い出が描かれている作品に着目させる指導を行った。家族の温かさや愛情などを感じている児童が多いことを、全員で共通理解することで、家族との生活をこれからも大切にしていきたいと考える児童の姿が見られた。

また、基本的人権が憲法で保障されている大切なものであることを理解し、大切にしようとする態度を育てるために、以下のような指導を行ってきた。

社会「わたしたちのくらしと日本国憲法」

自分たちが、日本国憲法は基本的人権の尊重の原則に基づいて、様々な国民の権利が保障されていることに気付くために、自分たちの生活のなかで人権が尊重されている場面を具体的に考えさせる指導を行った。児童は、学校内で人権が保障されていないと感じる場面に疑問をもち、学校施設の改善を提案し、実現させる姿が見られた。

以下、アンケートの結果から児童の実態を把握していきたい。

【家族愛についてのアンケート】（質問紙法により 令和7年6月24日実施）

質問：「家族との生活を大切にしたいと思いますか。」

6年1組

約8割が「そう思う」、約2割が「だいたいそう思う」と回答した。理由に関しては、「大切だから」が8名、「育ててくれるから」などの養育者としての面について書いた児童が1名、「支えてくれるから」などの理解者としての面について書いた児童が6名、「一緒にいると嬉しいから」などの過ごす時間の大切さについて書いた児童が1名、「ありがたい存在」「家族だから」などの、家族の存在自体のありがたさについて書いた児童が4名だった。

6年2組

約9割が「そう思う」、約1割が「だいたいそう思う」と回答した。理由に関しては、「一緒に過ごしているから」が1名、「大切だから」が9名、「育ててくれるから」などの養育者としての面について書いた児童が3名だった。また、「支えてくれるから」などの理解者としての面について書いた児童が5名、「一緒にいると嬉しいから」などの過ごす時間の大切さについて書いた児童が3名、「どう表せばよいか分からない」と書いた児童が1名、「家族だから」と、家族の存在自体のありがたさについて書いた児童が1名だった。

～考察～

アンケートの結果から、本学年の児童は、概ね家族との生活を大切にしたいと考えていることが分かる。「ご飯を作ってくれるから」「見守ってくれるから」等の家族から与えられる恩恵に価値を見だしている児童も多かった。今回の学習では、北朝鮮による日本人拉致問題に触れながら、奪われた家族を取り戻そうと願う家族の思いに共感したり、自分の思いを基に他者と話し合う言語活動を行ったりすることで、家族の存在自体のありがたさに気づき、大切にしようとする態度を育む。

（2）教材について

ア本主題の学習指導要領の位置付け

本主題について、「学習指導要領解説 特別の教科道徳編」において、高学年では以下のように記されている。父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること。

「児童が生を受けて初めて所属する社会は家庭であり、児童の人格形成の基盤はその家庭にあると言える。」

高学年の段階においては、自分の成長を願って愛情をもって育ててくれた家族に対して、尊敬や感謝を込めて、家族の幸せのために自分には何が貢献できるのかを考えることが大切である。家族への敬愛が深まる一方で、家族が何かをしてくれることに対しては、当然のことと考えて、日常生活の中で、家族の自分に対する思いや願いについては深く考えることは少ない。そのために、家族が相互に深い信頼関係で結ばれていることについて、具体的な場面を想起させ、自分との関わりで考えを深めることができるようにしていきたい。

イ教材と系統性

北朝鮮当局による日本人の拉致は、国民の生命と安全及び我が国の国家主権を脅かす重大な問題である。拉致被害者が拘束されて北朝鮮に連れ去られ、40年以上捕らわれたままの状態であることは被害者の全ての自由や幸せを奪う重大な人権侵害である。

また、拉致被害者家族は、かけがえのない家族を奪われ、不安と困惑の日々を強いられている。奪われた家族を一刻も早く取り戻そうとすることは、どの家族においても共通する切実な願いである。このような願いを児童に共感させるとともに、我が子の無事な成長を願い、無私の愛情をもって育ててくれている父母や祖父母などの家族に対し、感謝と敬愛の念を深めることは極めて重要である。

「拉致問題こども向けパンフレット『たいせつな人をとり戻すために』」は拉致問題の概要等について分かりやすく書かれた資料である。このパンフレットを読むとともに、「北朝鮮当局による日本人拉致問題啓発アニメ『めぐみ』」を視聴することで、拉致問題についての理解を深めることができる。一方で、拉致問題を扱うことは、北朝鮮の人々に対する偏見や差別を助長する可能性を有していることを踏まえた指導が必要である。日本人の拉致は、あくまで北朝鮮当局の考えによって行われたことであり、決して北朝鮮に住む一般市民や在日朝鮮人の方々への偏見や差別意識につながらないように、明確で意図的な指導を行うことが大切である。

なお、北朝鮮当局による日本人拉致問題啓発アニメ「めぐみ」は、昭和52年、当時中学1年生だった横田めぐみさんが、学校からの帰宅途中に北朝鮮当局により拉致された事件を題材に、残された家族の苦悩や、懸命な救出活動の様子が描かれているアニメーションである。

「教科内の系統性」

- | | | | |
|---------|-----|-------------------------|-----------------|
| ○11月・・・ | 主題名 | 家族だからこそ | 〔C 家族愛、家庭生活の充実〕 |
| | 教材名 | 北朝鮮による日本人拉致問題啓発アニメ「めぐみ」 | |
| ○2月・・・ | 主題名 | 家族に対する思い | 〔C 家族愛、家庭生活の充実〕 |
| | 教材名 | ぼくの名前呼んで | |

ウ指導観

自己の判断や意思で行動しようとし始めるこの時期の児童に、拉致被害者とその家族の思いを考えさせることを通して、自分も家族と深い信頼関係で結ばれていることについて気付かせ、家庭生活の在り方、家族の愛情の普遍性について考えることで家族の一員としての自覚を深めさせたい。そして、自分の生活が家族に支えられていることに気付き、感謝する思いをもつことで、父母や祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて改めて家族を大切にしようとする態度を育む。その上で、多様な家族構成や家庭状況があることを踏まえて、発問や活動には、十分に配慮する。

4 人権教育の視点

拉致被害者、拉致被害者家族の現状を知り、その悲しみや苦しみ、元の生活を取り戻したいという気持ちに共感させることを通して、家族の幸せを求めて、改めて家族を大切にしようとする心情を育む。

5 研究主題に迫るための手だて

○自分も相手も大切にする言語能力を育成するための言語活動

【他者の考えや意見を認め、生かそうとする力】

- ・他者の考えや意見を認め、自分の考えを明確にするために児童の考えを板書で共有し、自分と他人の考えを比較し、多面的に捉えられるようにする。
- ・他者の考えや意見を認めながら、自分の考えをさらに深めるために、中心発問ではペア交流、グループ交流を取り入れ、共感したり、納得したりした意見をワークシートに追記し、自分の考えに生かそうとする。

6 本時の指導（1／1）

（1）本時のねらい

拉致被害者、拉致被害者家族の現状を知り、その悲しみや苦しみ、元の生活を取り戻したいという気持ちに共感させることを通して、家族の幸せを求めて、改めて家族を大切にしようとする態度を育む。

（2）展開

	○学習活動 ・予想される児童の反応	*人権教育に関わる留意点等	◇評価【評価方法】 ◆研究主題に迫るための手だて
導入	○拉致問題こども向けパンフレット「たいせつな人を取り戻すために」を読み、この問題の背景を知る。	*拉致問題は、たくさんの人々の自由や幸せを奪う重大な、今なお続いている人権侵害であることを理解させる。	
展開	<p>○「北朝鮮による日本人拉致問題啓発アニメ「めぐみ」の視聴を通し、拉致問題について話し合う。</p> <p>【発問1】めぐみさんの両親は、どんな思いで、救助するために行動し続けているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんとかして探し出したいから。 ・何があっても、我が子の命を救いたいから。 ・かけがえのない家族だから。 <p>○登場人物を通して実感した家族の深い絆を基にして、自分と家族との関わりについて考える。</p> <p>【発問2】家族の絆はどんなときに深まるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒にいるとき。 ・家族を思いやったとき。 	<p>*映像の概略を示してから、めぐみさんが突然いなくなった場面、めぐみさんを救助しようと両親が行動する場面を視聴させる。</p> <p>*こどもを奪われた親の苦しみ、悲しみや拉致被害者家族である横田さん夫妻の気持ちを考えられるようにする。</p> <p>*街頭で救助を呼びかけたり、マスコミに取り上げられたりする両親の行動に目を向けられるようにする。</p> <p>*娘のことを心配し、自分たちを責めながらも、娘を助けようとする両親の姿から、家族の深い愛を理解できるようにする。</p> <p>*めぐみさんの母親の早紀江さんの実際のコメントを紹介し、拉致は北朝鮮当局によって行われたものでありことを伝え、北朝鮮に住む一般市民や在日朝鮮人に対する偏見や差別を助長させないように指導する。</p> <p>○それぞれのグループごとの話し合いの中で出された思いを聞き、様々な考えを交流させることを通して、児童の思考を深めていく。</p> <p>○考えを深める過程で、表面的な理由ではなく、本質的な理由（〇〇をしてくれるから大切、なのではなく、存在自体が尊い）に気付かせる。</p>	<p>◆ワークシートに自分の考えを書かせ、考えを交流することで、多面的な意見を生かしてグループの意見を練り上げる。</p> <p>◇「家族の大切さ」について、考えを深めているか。</p> <p>【ワークシート・発言】</p>

終末	<p>○家族との関わりについて思いを深める。</p> <p>T:この学習を通して、家族との関わりについて感じたことや考えたことを書きましよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も家族から大切にされているという思いを大切にしたい。 ・家族との日々の何気ない触れ合いが、実はとても大事なものだということに気付いた。 	<p>◇「家族だからこそ」について、自分の体験や感じ方とつなげて、考えを深めているか。</p> <p>【ワークシート・発言】</p>
----	---	--

7 板書計画

<p>道徳 「めぐみ」 ～家族だからこそ～</p>		
<p>両親はどんな思いで行動し続けたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんとかして探し出したいから。 ・何があっても、我が子の命を救いたいから。 ・かけがえのない家族だから。 	<p>家族のきずなは、どんなときに深まるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のためにいろいろしてくれるとき。 ・一緒にいるとき。 ・相手のことを考えたとき。 	<p>この学習を通して、家族との関わりについて感じたことや考えたことを書きましよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族との日々の何気ない触れ合いが、実はとても大事なものだということに気付いた。

道徳ワークシート 月 日() 名前()

「めぐみ」～家族だからこそ～

・家族のきずなは、どんなときに深まるのだろうか。

・ふりかえり 家族との関わりについて思いを深める。